

レベル I

【看護の核となる実践能力】

レベル I の定義 基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する

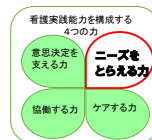
“萬生会の目指す看護師の姿”

- 患者・家族等から得た情報をアセスメントして療養上の課題が抽出できる
- 看護実践する力を、立案された入退院支援計画に基づいて助言を受けながら応用し、実践できる

ニーズを捉える力

【レベル I の目標】助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる

- 行動目標 ① 助言を受けながら、ケアの受け手に必要な身体的・精神的・社会的、スピリチュアルな側面から情報収集ができる
② ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる

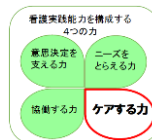


| | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------|--|--|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| ニーズをとらえる力 | | 患者や家族との約束や、依頼されたことについて誠実に対応できる | | |
| | | 患者の問題に対して意識をもって関わり、気づいた問題に対して他者に伝え理解を得ることができる | | |
| | | 療養上必要な情報を得ることや、看護師の助言等を伝えやすい関係を患者・家族と築くことができる | | |
| | | 守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮することができる | | |
| | | 看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接することができる | | |
| | | 自分の悩みや困難体験を言語化し、他者の支援を得ることができる | | |
| | | 患者・家族の状況から緊急度を捉えることができる | | |
| | | 自然な日常会話の中で患者・家族から必要な情報をえることができる (状態観察を含む) | | |
| | | 身体的側面：助言を受けながら、患者・家族を理解するために、客観的なデータや患者の状態に合わせてバイタルサイン等の観察をし、基本的なフィジカルアセスメントを行うことができる。また、生活上の基本的なニーズに関する情報を患者やその家族から得ることができる | | |
| | | 精神的側面：助言を受けながら、患者・家族を理解するために、疾患や治療等についての理解を確認しながら不安や恐れ、疑問などの情報を得ることができる。また、言動から認知機能を評価することができる | | |
| | | 社会的側面：助言を受けながら、患者・家族を理解するために、経済的な心配や家庭や仕事上の役割などについての情報を得ることができる | | |
| | | スピリチュアルな側面：助言を受けながら、患者・家族を理解するために、生活史、価値観や信条、治療についての考え方等の情報を得ることができる | | |
| | | 患者の状況から医療的な緊急度をとらえ、助言を受けながら緊急度に応じた観察をし必要な情報を得ることができる。(たとえば、致死的不整脈や意識障害など生命の危機に関わる緊急性のある異常を発見できる) | | |
| | 助言を受けながら、診療記録上の情報を確認し、患者の訴えや観察をもとにアセスメントする | | | |
| 項目数 | 14 | 修得率 | 0% | 0% |

ケアする力

【レベル I の目標】助言を得ながら、安全な看護を実践する

- 行動目標 ① 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる
② 指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる
③ 看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる



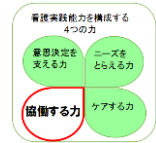
| | カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-------|------|-------|--|-------------|-------------|
| | | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| ケアする力 | | | 患者の看護に必要な物品を事前に準備することができる | | |
| | | | 助言を得て衛生材料の物品を適切に選択できる | | |
| | | | 助言を得ながら、患者の状態に合わせて、看護手順をもとにケアの説明ができる | | |
| | | | 助言を得ながら、看護手順に沿ったケアを、患者に実施することができる | | |
| | | | 患者に対して基本的な生活行動の援助ができる | | |
| | | | 重症患者や医療依存度の高い患者に対して、指導を受けて基本的な生活行動の援助を行うことができる | | |
| | | | 基本的看護技術については、新人看護職員研修ガイドラインにおける看護技術についての到達目標が達成できる | | |
| | | | 急変時には、対応の場において流れを把握し、指示を受けながらメモをとる、バイタルサインを確認するなど、できることを探して実践できる | | |
| | | | 立てられた入退院支援計画を確認することができ、助言を得ながら、計画に基づき、患者の同意を得てケアを提供できる | | |
| | | | 看護記録をSOAPで適切に記載できる | | |
| | | | 困難な事例に対して客観視し他者の支援を求めることができる | | |
| | | | 助言を得ながら、入退院支援計画を立案することができる | | |
| | | | | レベル I 1/4 | |

| | | | | |
|-----|----|-----|----|----|
| 項目数 | 12 | 修得率 | 0% | 0% |
|-----|----|-----|----|----|

協働する力

【レベルⅠの目標】関係者と情報共有ができる

- 行動目標 ① 助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる
- ② 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる
- ③ 助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる
- ④ ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる
- ⑤ 連絡・報告・相談ができる

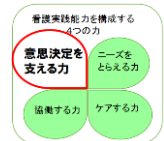


| カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-------|-------|---|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 協働する力 | | 看護チームの一員であることを理解し、日々の患者へのケアを、他の看護師と協働して行う。常に自らの持つ情報をリーダー看護師に連絡し、患者の状態について報告し、判断できないことや経験のない処置やケアについて相談できる | | |
| | | 助言を受けながら、チームの一員としての自分の役割と責任を理解し、共に働く同僚の行動に気づいて声かけができる | | |
| | | 他職種やチーム（医師、訪問看護師、認定看護師、薬剤師、栄養士、PT、OT、ST、MSW、ケアマネジャー、CW、NST、緩和ケアチームなど）の役割を理解し、助言を受けながら、ケアに必要な情報を関係職種より得ることができる | | |
| | | ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる | | |
| | | 他職種の記録から看護に必要な情報を読み取り、行った看護ケアや観察結果等を記録に残し、関係者に情報を伝えることができる | | |
| | | カンファレンスに参加し、発言することで、自らの持つ情報を提供して関係者と共有することができる | | |
| | | 割当てられた業務について、助言を得ながら時間内に次の勤務者へ引き継ぐことができる | | |
| | | 助言を受けながら、看護ケアを行う時に不足している情報が何かを判断し関係者から情報収集することができる | | |
| | | 一人で判断が困難な問題に対し、リーダー看護師や看護師長にすみやかに報告・相談できる | | |
| | | 同僚やリーダー看護師の支援が必要か判断し、報告・相談、協力を求めることができる | | |
| | | 助言を得ながら、患者の関係者それぞれの役割やケアの視点の相違について理解する | | |
| | | 助言を得ながら、主治医やその他の職種への報告・連絡・相談の方法を理解し実践できる | | |
| 項目数 | 12 | 修得率 | 0% | 0% |

意思決定を支える力

【レベルⅠの目標】ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る

- 行動目標 ① 助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる



| カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------|-------|---|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 意思決定を支える力 | | 助言を受けながら、患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望を知ることができる（たとえば、患者や家族（または患者を取り巻く人々）の不安を推察し、思いを聞くことに努める必要があると気づき、思いの表出を促すことはできなくとも、頻回に訪室して患者と家族（または患者を取り巻く人々）の話を誠実かつ真摯な態度で、受容的・共感的に聴くことができる） | | |
| | | 患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望を多職種に伝えることができる（たとえば、患者と家族（または患者を取り巻く人々）から希望を聞き、その希望をリーダー看護師等に伝えることができる） | | |
| 項目数 | 2 | 修得率 | 0% | 0% |

【組織的役割遂行能力】

レベルⅠの定義 責任の最も軽い、難易度の最も低い、軽微な組織の役割を果たす。看護チームでは、フォロワーやチームメンバーの役割、病棟の係としては簡単なルーチンの係の役割を遂行できる。

- 行動目標 ① 萬生会の理念が理解できる
- ② 医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの重要性を理解できる
- ③ 目標管理を理解し、助言を受けながら所属部署の目標達成のための個人目標を達成できる
- ④ チームメンバーの役割を理解し、助言を受けながら実践できる
- ⑤ 必要時、支援や指導を自ら求めることができる

| カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|------|-------|--|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| | | 萬生会の理念が理解できる | | |

| | | | |
|--|--|-----|-------|
| 組織的役割遂行能力 | 事業計画、看護部目標、所属部署の目標及び計画が理解できる | | |
| | 所属部署の目標達成のための活動に参加できる | | |
| | 目標管理を理解し、助言を受けながら個人目標を達成できる | | |
| | チームメンバーの役割を理解し、助言を受けながら実践できる | | |
| | 必要時、支援や指導を自ら求めることができる | | |
| | 事業所の組織体制が理解できる | | |
| | 病院の諸規則について知り、行動化できる | | |
| | 各種届出書類・必要な手続きが理解できる | | |
| | 業務上の報告・連絡・相談を助言を受けながら適切に行うことができる | | |
| | 緊急時連絡網を理解できる | | |
| | 電話やパソコンの使用方法がわかり使用できる | | |
| | 看護用品や医療機器・器具の整備・点検を行うことができ、適切に使用することができる | | |
| | 自己の感染予防に努めることができ、健康状態に不安を感じたときは速やかに対処できる | | |
| | 標準予防策について理解し実践できる | | |
| | 麻薬・向精神薬・抗癌剤・常備薬品等の正しい取り扱いが指導を受けながらできる | | |
| | 医療安全の基本的な知識を習得し実践できる | | |
| | 医療廃棄物の取り扱いを理解し、必要な感染対策と適切な分別を、助言を得ながら実施できる | | |
| | インシデント（ヒアリ・ハット）事例や事故事例の報告を速やかに行うことができる | | |
| | 血液製剤の特性を知り、マニュアルに沿って適切に請求・受領・保管し実施する | | |
| | 施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し、患者に説明できる | | |
| 定期的な防災訓練に参加し、自分の役割を理解することができる | | | |
| 医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの重要性を理解し行動できる | | | |
| 患者中心のサービスであることを認識し、患者家族に接することができる | | | |
| 守秘義務を遵守、プライバシーを保護し、医療情報や記録物を取り扱うことができる | | | |
| 項目数 | 25 | 修得率 | 0% 0% |

【自己教育・研究能力】

レベルⅠの定義 自己の課題を指導によって発見し、自主的な学習に取り組むことができる

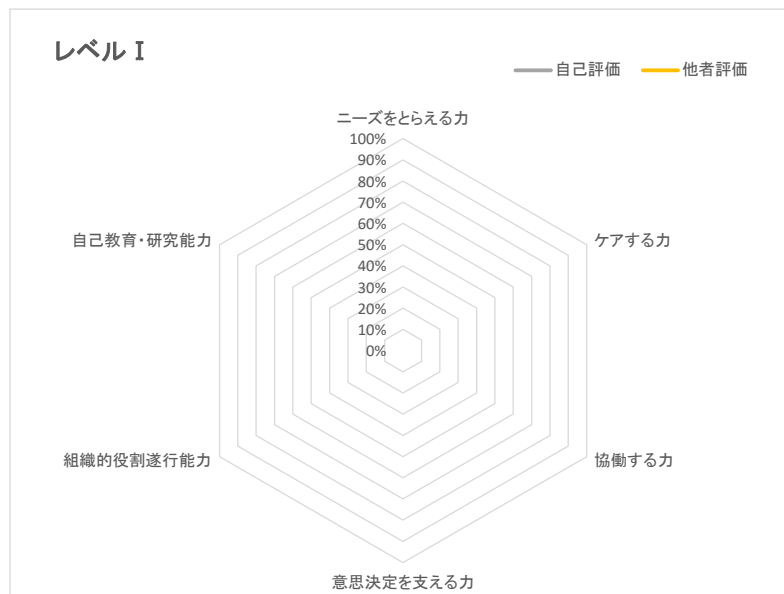
- 行動目標 ① 新人看護職員研修ガイドラインに沿って学習する
 ② 助言を受けながら自己の学習課題を明確にできる
 ③ 看護過程を1事例まとめることができる

| カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------|---|-------------|-------------|
| | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 自己教育・研究能力 | 新人看護職員研修ガイドラインに沿って知識・技術・態度を習得する | | |
| | 助言を受けながら自己の学習課題を明確にできる | | |
| | 計画された研修に主体的に参加する | | |
| | 未経験の基本的な看護技術について習得を目指し、実際の場面で見学・実施できるように自ら指導者に求めることができる | | |
| | 経験した事例について1事例、看護過程をまとめ所属部署で発表する事ができる | | |
| 項目数 | 5 | 修得率 | 0% 0% |

レベルⅠ

- レベルⅠの定義**
- 1) 基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する
 - 2) 責任の最も軽い、難易度の最も低い、軽微な組織の役割を果たす。看護チームでは、フォロワーやチームメンバーの役割、病棟の係としては簡単なルーチンの係の役割を遂行できる。
 - 3) 自己の課題を指導によって発見し、自主的な学習に取り組むことができる

| レベル I | 自己評価 | 他者評価 |
|-----------|------|------|
| ニーズをとらえる力 | 0% | 0% |
| ケアする力 | 0% | 0% |
| 協働する力 | 0% | 0% |
| 意思決定を支える力 | 0% | 0% |
| 組織的役割遂行能力 | 0% | 0% |
| 自己教育・研究能力 | 0% | 0% |



レベルII

【看護の核となる実践能力】

レベルIIの定義 標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する

“萬生会の目指す看護師の姿”

- 助言を受けながら、個性性を考慮した入退院支援計画を立案できる
- 看護実践する力を、立案された入退院支援計画に基づいて自ら応用し、実践できる
- 助言を受けながら、入退院支援計画を評価して再アセスメントに必要な情報を収集し、課題を見直すことができる

ニーズを捉える力

【レベルIIの目標】ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる

- 行動目標 ① 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる
 ② 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる

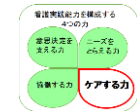


| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しかつきた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------|------|--|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| ニーズをとらえる力 | | 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる | | |
| | | 身体的側面：自立して、患者の状態に合わせてバイタルサイン等の観察や客観的なデータを確認し、フィジカルアセスメントを行うことができる。また、生活上の基本的なニーズに関する情報、生活習慣、住環境を患者やその家族から得ることができる。 | | |
| | | 精神的側面：自立して、疾患や治療等についての理解を確認しながら不安や恐れ、疑問などの情報を得ることができる。また、言動から認知機能を評価することができる | | |
| | | 社会的側面：自立して、経済的な心配や家庭や仕事上の役割などについての情報を得ることができる | | |
| | | スピリチュアルな側面：自立して、生活史、価値観や信条、治療についての考え方、生きることの考え方やつらさ等の情報を得ることができる | | |
| | | 診療記録、入退院支援シートなどの枠組みに沿った内容について、多職種から情報収集を行うことができる | | |
| | | 看護の優先順位がわかる | | |
| | | 情報を得ることの必要性について理解し、求められれば説明できる | | |
| | | 自然な会話の中で、患者、家族から必要な情報収集ができる | | |
| | | 患者個々の特性を理解して、多様な方法を用いてコミュニケーションをとることができる | | |
| | | 生活という視点で情報収集ができ、現時点だけでなく過去の生活歴に目を向けた情報収集ができる | | |
| | | 連絡が取りにくい家族や多職種担当者と意図的にコミュニケーションを図り情報収集する | | |
| | | 自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面に関連づけて患者の全体像としての課題をとらえることができる | | |
| | | 助言を受けながら、入退院支援計画を評価して再アセスメントに必要な情報を収集し、課題を見直すことができる | | |
| 項目数 | 14 | 修得率 | 0% | 0% |

ケアする力

【レベルIIの目標】ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する

- 行動目標 ① ケアの受け手の個性性を考慮しつつ助言を受けながら立案した入退院支援計画に基づきケアを実践できる
 ② ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる
 ③ ケアの受け手の状況に応じた援助ができる

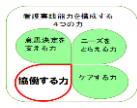


| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しかつきた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-------|------|--|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| ケアする力 | | 自立してとらえた患者の課題、既往歴、年齢、性別、社会的役割等を考慮して、助言を受けながら個別的な入退院支援計画を立案することができる | | |
| | | 入退院支援計画に基づいて自立してケアを実践することができる | | |
| | | 患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得て、状況に応じた援助を実践することができる。(観察して患者の状態を把握し、必要に応じて時間調整や疼痛コントロールなどを実践してからケアを行うなど。) | | |
| | | 重症患者や医療依存度の高い患者に対しても自立してケアを実践することができる | | |
| | | 患者に対して指導をする場合、一般的な内容について、網羅して説明することができる | | |
| | | 急変時には、指示されたケアを責任をもって実践できる | | |
| | | 実施したケアにより患者のニーズが満たされたか否か、患者の言動、表情から反応を観察し、判断できる | | |
| | | 実施したケアにより患者のニーズが満たされたか否か、客観的なデータや身体上的の変化を観察し判断できる | | |
| | | 問題点を見つけ、評価及び計画の修正ができる | | |
| | | 自らが対応することが困難であると判断した場合は、助言を受けながら指示を受け対応することができる | | |
| | | 助言を受けながら患者の病状の変化や緊急時に応じた対応について、報告ができる | | |
| | | 助言を得て、看取りの患者への対応ができる | | |
| | | 患者の状態や内容について報告ができ、自分の意見を述べるることができる | | |
| 項目数 | 13 | 修得率 | 0% | 0% |

協働する力

【レベルIIの目標】看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる

- 行動目標 ① ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる
 ② 関係者と密にコミュニケーションを取るることができる
 ③ 看護の展開に必要な関係者を特定できる
 ④ 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる



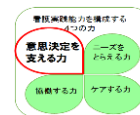
| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しかつきた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|--|------|---|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| | | ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる | | |

| | | | |
|-------|---|-----|-------|
| 協働する力 | 関係者と密にコミュニケーションを取ることができる | | |
| | 看護の展開に必要な関係者を特定できる | | |
| | 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる | | |
| | 患者の疾患の現状、検査結果、治療方針を担当医より確認し、患者の訴えや受け止めている思いを多職種に伝えることができる。医療チームに情報共有し、入退院支援の方針と看護チームの担当するケア内容を明確にすることができる | | |
| | 患者に関わる多職種の役割を理解し、必要に応じて多職種の協力の必要性に気づき、助言を受けながら協力を求めることができる | | |
| | カンファレンスに参加し、積極的に発言することで、患者の思いや希望等の必要な情報を多職種と共有することができ、ケア計画に反映できる | | |
| | 緊急事態が生じない限りにおいて一日の業務の流れに沿って時間内に業務を引き継ぐことができる | | |
| | 多職種や医療職以外にも伝わるような丁寧な説明を行うことができる | | |
| | 患者や家族（または患者を取り巻く人々）や関係者が納得できるような説明をすることで、お互いの認識にずれが生じることを予防することができる | | |
| | 関係者とのコミュニケーション方法について、次の連絡方法を活用する事ができる 口頭、電話、文書、電子カルテ等 | | |
| | 看護師長や同僚の助言が必要と判断し、助言を求めることができる | | |
| | 看護サマリーを記入し、他職種と連携した継続看護の提供ができる | | |
| | 主治医に対し、的確に相談できる | | |
| 項目数 | 14 | 修得率 | 0% 0% |

意思決定を支える力

【レベルⅡの目標】ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に生かすことができる

- 行動目標 ① ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる
② 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる



| カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------|--|-------|-------|
| | | 自己評価 | 他者評価 |
| | | 月 日 | 月 日 |
| 意思決定を支える力 | 患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望を意図的に確認することができる。（たとえば、患者と家族（または患者を取り巻く人々）から希望を聞いた際には、その希望の背景や理由についても確認することができる。） | | |
| | 患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望をケアに関連づけ、ケアに反映させることができる | | |
| | 患者・家族等の希望や意思に対し、入退院支援計画の目標やケア計画とのずれがないか考えることができ、ずれがある場合、助言を受けながら、入退院支援計画の修正の必要性を関係職種に発信でき、患者・家族等の意向に沿った計画変更につなげることができる | | |
| | 説明に対する患者や家族（または患者を取り巻く人々）の認識と医療者の認識のずれに気づき、追加の説明等調整することができる | | |
| | 患者や家族（または患者を取り巻く人々）が意思決定する上で、必要な情報を得られるよう行動できる | | |
| | 患者や家族の生活してきた歴史や環境を考えながら、思いや考えを傾聴し、共感的に受け止めることができる | | |
| | 患者・家族の持つ個性、能力、強み等を把握し、ケアに活かし認めることができる | | |
| | 患者と家族を一単位の看護の対象として認識し、互いに影響しあう存在としてとらえて、働きかけることができる 意思決定の主体は患者・家族であることを念頭に置いて働きかけることができる | | |
| 項目数 | 9 | 修得率 | 0% 0% |

【組織的役割遂行能力】

レベルⅡの定義 組織の一員としての役割が理解でき、部署の目標達成に向けて、基準や手順を順守した行動がとれる。日々の看護業務においてリーダーシップがとれる。

- 行動目標 ① 医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの重要性を理解し行動できる
② 所属部署における自身の役割を理解し、個人目標に設定し計画的に遂行できる
③ 自身の時間管理ができ、共に働くチームメンバーの行動に気づき必要な支援ができる
④ 患者の状態像の変化に応じて必要な医療材料・物品についてリーダー看護師に伝えることができる
⑤ 業務の優先順位を決定でき、必要な報告・連絡・相談を適切に行うことができる
⑥ 医療安全・感染予防の基本的知識・技術に基づき必要な行動をとり、リスクを回避することができる

| カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|---|--|-------|-------|
| | | 自己評価 | 他者評価 |
| | | 月 日 | 月 日 |
| 組織的役割遂行能力 | 篤生会理念・病院の方針・患者の権利を理解した行動をとることができる | | |
| | 所属部署の目標達成のため割り当てられた役割を理解し、個人目標に設定し計画的に遂行できる | | |
| | 個人目標が達成できる | | |
| | 自身の時間管理ができ、共に働くチームメンバーの行動に気づき必要な支援ができる | | |
| | 患者の状態像の変化に応じて必要な医療材料・物品についてリーダー看護師に伝えることができる | | |
| | 業務の優先順位を決定でき、必要な報告・連絡・相談を適切に行うことができる | | |
| | 医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの重要性を理解し行動できる | | |
| | 患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接することができる | | |
| 職業人として自覚を持ち、倫理に基づいて行動することができる | | | |
| 医療安全・感染予防の基本的知識・技術に基づき必要な行動をとり、リスクを回避することができる | | | |
| 項目数 | 10 | 修得率 | 0% 0% |

【自己教育・研究能力】

レベルⅡの定義 自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる。

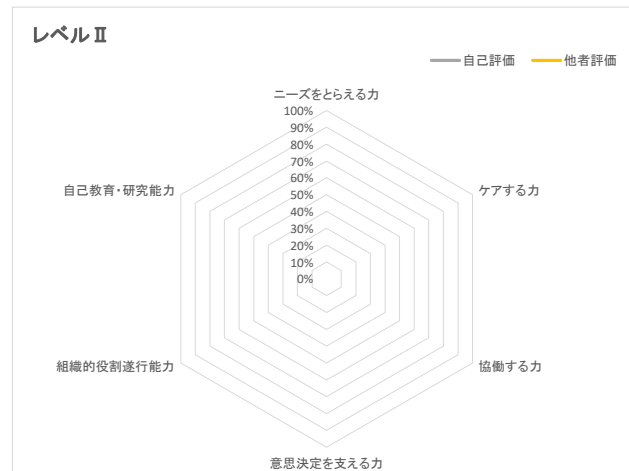
- 行動目標 ① 自己の学習課題を見出し学習計画を設定できる
 ② 業務改善あるいは研究に取り組む
 ③ レベルⅠを目指す後輩に対し、適切に支援ができる

| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------|---------------------------|---|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 自己教育・研究能力 | 人間関係能力 | 自己の学習課題を見出し学習計画を設定できる | | |
| | 情報収集能力 | 受け持ち患者の複雑な課題について、カンファレンスを活用して解決策を見出すことができる | | |
| | | 自ら院内外の研修に参加し、知識・技術の習得に努め、同僚に伝達できる | | |
| | | 業務上の改善点に気づき、また、共通の課題を持つメンバーと、チームとして研究的に取り組むことができる | | |
| | | レベルⅠを目指す後輩が、発言しやすいよう助言し、必要な情報収集ができ、不安なく行動できるよう支援できる | | |
| | 実習生の看護計画立案・実施・評価について助言できる | | | |
| 項目数 | 6 | 修得率 | 0% | 0% |

レベルⅡ

- レベルⅡの定義**
- 1) 標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する
 - 2) 組織の一員としての役割が理解でき、部署の目標達成に向けて、基準や手順を順守した行動がとれる。日々の看護業務においてリーダーシップがとれる
 - 3) 自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる

| レベルⅡ | 自己評価 | 他者評価 |
|-----------|------|------|
| ニーズをとらえる力 | 0% | 0% |
| ケアする力 | 0% | 0% |
| 協働する力 | 0% | 0% |
| 意思決定を支える力 | 0% | 0% |
| 組織的役割遂行能力 | 0% | 0% |
| 自己教育・研究能力 | 0% | 0% |



レベルⅢ

【看護の核となる実践応力】

レベルⅢの定義 ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する

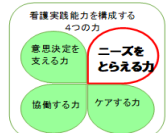
“萬生会の目指す看護師の姿”

- 療養の場において身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から情報収集し、一連の看護過程を自立して展開できる（一人前・実習指導者）

ニーズを捉える力

【レベル毎の目標】ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえたニーズをとらえる

- 行動目標 ① ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ情報収集ができる
 ② 得られた情報からケアの受け手の全体像としての課題をとらえ、優先度の高いニーズを判断することができる

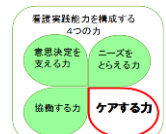


| | カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------|------|-------|---|-------------|-------------|
| | | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| ニーズをとらえる力 | | | 個別性を踏まえ、患者に必要な身体的側面からの情報収集ができる | | |
| | | | 個別性を踏まえ、患者に必要な心理的側面からの情報収集ができる | | |
| | | | 個別性を踏まえ、患者に必要な社会的側面（地域性、家族構成、環境等）からの情報収集ができる | | |
| | | | 個別性を踏まえ、患者に必要なスピリチュアルな側面（価値観・宗教・精神世界・信仰等）からの情報収集ができる | | |
| | | | 得られた情報からケアの受け手の全体像としての課題をとらえ、優先度の高いニーズを判断することができる | | |
| | | | 診療記録など決められた枠組みに沿った情報収集だけでなく、個別性を踏まえ、多職種からの情報も得て、患者にとって必要な情報収集を行うことができる。 （例）生活習慣など相手の生活を細部までとらえ、患者・家族（または患者を取り巻く人々）の希望も踏まえて、入院生活や退院支援・退院調整に必要な情報を得ることができる。） | | |
| | | | 正確なフィジカルアセスメントができる （例）複数疾患、病期、病態を理解し、患者から症状の訴えがあった場合、原因として患者の体内で起こっている現象を考察することができる。） | | |
| | | | 患者の状態に合わせて、標準的な観察項目に関する観察ができるだけでなく、各項目について観察する意味と観察項目間の関連を分析し、状況変化や必要に応じて観察項目を追加したり、異常値の出現時に優先順位を考慮し対処ができる | | |
| | | | 得られた情報を分析し、患者および多職種間において情報の認識にずれがないかを確かめることができる | | |
| 項目数 | 9 | | 修得率 | 0% | 0% |

ケアする力

【レベル毎の目標】ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する

- 行動目標 ① ケアの受け手の個別性に合わせて、立案した入退院支援計画に基づき適切なケアを実践できる
 ② ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる
 ③ ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映ができる

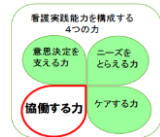


| | カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-------|------|-------|--|-------------|-------------|
| | | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| ケアする力 | | | 立案した入退院支援計画に基づき患者の個別性に合わせた適切なケアを行うことができる。（たとえば、患者の入院前からの習慣についての情報を考慮した生活行動援助を計画・実践することができる。） | | |
| | | | ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる | | |
| | | | 実践したケアや計画の評価を行いアセスメントし、目標達成につながるよう患者の状況に合わせて計画の修正・追加を行うことができる | | |
| | | | 患者に対して指導をする場合、患者の生活習慣や価値観、希望などを考慮して説明することができ、可能な限りの自立を目指しセルフケアできるよう関わることができる | | |
| | | | 患者のニーズを的確にとらえられることで、複数の患者を受け持つ中で、優先順位を正しく判断し、ケアを実践できる | | |
| | | | 急変時やターミナル期には臨機応変に対応し、予測される状況変化について説明や報告ができ、家族（または患者を取り巻く人々）等に配慮することができる | | |
| | | | 退院後の療養の場所や関わる職種に応じて、必要なケアが継続できるように、ケア方法をシンプルに変更することができる | | |
| | | | 退院時には看護サマリーを記入し、関係職種と連携しつつ継続看護の提供ができる | | |
| 項目数 | 8 | | 修得率 | 0% | 0% |

協働する力

【レベル毎の目標】ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる

- 行動目標
- ① ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる
 - ② ケアの受け手とケアについて意見交換できる
 - ③ 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる

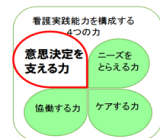


| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-------|------|---|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 協働する力 | | 患者の個別的なニーズに対応するため、多職種連携を進めることができる | | |
| | | 患者の現在ある状況を捉え、必要な職種がわかり、情報収集・情報共有ができ協力を求めることができる。 | | |
| | | 入退院支援計画に基づき多職種で実践したケア状況を共有、評価し、目標達成につながるよう計画の修正・追加のための調整ができる。 | | |
| | | 患者・家族等とケアについて意見交換できる。 | | |
| | | 入院時から、退院後の生活場所（自宅、連携施設、高齢者介護施設等）について、多職種に提案する等の調整を行うことができる。 | | |
| | | 協働する看護師及び他職種と積極的に情報共有することができる。治療方針や検査結果、ケアの内容を多職種で共有し意見を聞くことができる。 | | |
| | | 定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極めて関係者(患者及び家族・在宅部門)とカンファレンスを開催できる。 | | |
| | | 患者や家族（または患者を取り巻く人々）が治療に協力できる工夫を行うために、カンファレンスに参加できるよう働きかけることができる。 | | |
| | | 個別的なニーズを実現するために検討した内容について説明し、実践可能な方策について調整することができる | | |
| | | 患者ごとの生活環境や生活習慣を把握した上で、それらを考慮したサービス体制を、関係者と共に作ることができる | | |
| 項目数 | 11 | 修得率 | 0% | 0% |

意思決定を支える力

【レベル毎の目標】ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる

- 行動目標
- ① 患者の立場に立って、患者の知る権利や自己決定権を守るように行動できる
 - ① ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる
 - ② ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる
 - ③ ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる



| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------|------|---|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 意思決定を支える力 | | 患者の立場に立って、患者の知る権利や自己決定権を守るよう行動することができる | | |
| | | 患者や家族（または患者を取り巻く人々）の意思決定に必要な情報を提供することができる。（たとえば、療養の場や治療・検査について、選択肢の特徴が説明でき、患者や家族（または患者を取り巻く人々）に提案するなどして意思決定を支えることができる。） | | |
| | | 患者と家族（または患者を取り巻く人々）にとって、何が大事なのかという価値観、生き方、意向を引き出し、それぞれの気持ちを聞くことができる。 | | |
| | | 患者と家族（または患者を取り巻く人々）両者の意向が異なる場合においても、両者の思いをくみ取り理解することができる。 | | |
| | | 患者や家族、周囲の人々の意思や意向の違いが理解でき、それぞれにあった必要な情報を提供することができる | | |
| | | 患者と家族（または患者を取り巻く人々）の意向の違いを多職種に代弁することができる。 | | |
| 項目数 | 7 | 修得率 | 0% | 0% |

【組織的役割遂行能力】

レベルⅢの定義

所属する職場で、組織的役割が遂行できる。看護チームでは、チームリーダーやコーディネーターの役割、所属部署での係としては、創造的能力を要求される系の役割を遂行できる。

- 行動目標 ① 医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの重要性を理解し行動できる
 ② 所属部署の目標達成のため、自信の役割を理解し、積極的に取り組み成果をだすことができる
 ③ 入退院支援計画に基づきケア提供ができるよう、チームリーダーとして行動しチームメンバーへ指導できる

| | カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------------------|------|-------------------------------|---|-------------|-------------|
| | | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 組織的 役割 遂行 能力 | | | 厚生会理念・病院の方針・患者の権利を理解した行動をとることができる。 | | |
| | | | 所属部署の目標達成のため、自身の役割を理解し、積極的に取り組み成果を出すことができる。 | | |
| | | | 入退院支援計画に基づきケアの提供ができるよう、チームリーダーとして行動しチームメンバーへ指導できる。 | | |
| | | | メンバーの行う看護行為が計画に沿って適切に行われているか指導でき、時にはメンバーの実践の不足を補うことができる。 | | |
| | | | 自身の看護ケアがメンバーのモデルとなることができる。 | | |
| | | | チームメンバーと情報や意見交換し、メンバーの能力や業務の進行状況に応じた調整ができる。 | | |
| | | | チームメンバーのケア提供状況に応じて支援でき、必要に応じてメンバーからの相談に応じることができる。 | | |
| | | | 患者の複雑な課題や状況の変化に応じて、カンファレンスを活用するようメンバーに指導できる。 | | |
| | | | カンファレンスを通して、後輩に教育的に関わることができる。 | | |
| | | | 医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの重要性を理解し行動できる。 | | |
| | | | 職業人として自覚を持ち、倫理に基づいて行動することができる。 | | |
| | | | インシデント事例の分析結果に基づき、所属部署の業務改善に取り組むことができる。 | | |
| | | 医療安全・感染予防のマニュアルの見直しに積極的に参加する。 | | | |
| | | 災害時の対応について、後輩に指導できる。 | | | |
| 項目数 | 14 | | 修得率 | 0% | 0% |

【自己教育・研究能力】

レベルⅢの定義

自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる

- 行動目標 ① 自信の目指す方向性を意識して、学習活動に積極的に取り組むことができる
 ② レベルⅠ及びⅡを目指す看護師や看護学生に対し、適切に指導的関わりを持つことができる

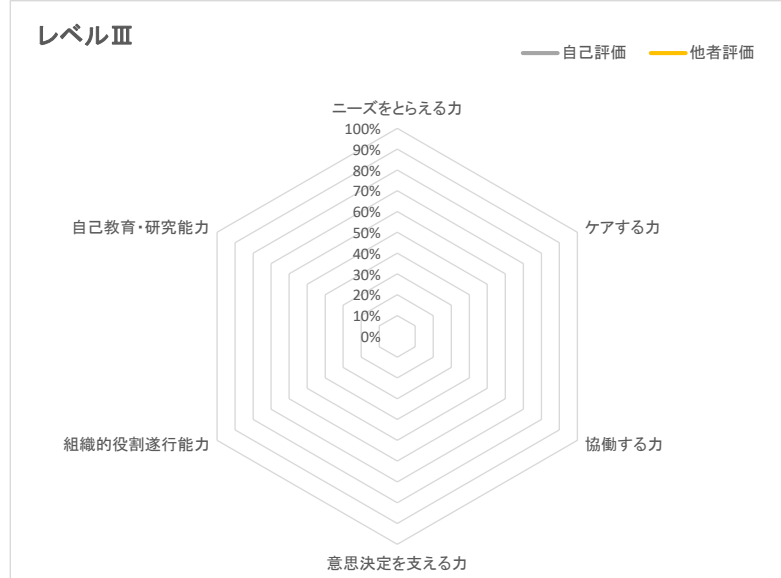
| | カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|---------------------------|------|-------|---|-------------|-------------|
| | | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 自己 教育 ・ 研究 能力 | | | 自身の目指す方向性を意識して、学習活動に積極的に取り組むことができる。 | | |
| | | | 継続的に院内外の研修や学会に参加し、知識・技術の向上に努め、同僚に伝達し、所属部署のケアの質向上に活かすことができる。 | | |
| | | | レベルⅠ及びⅡを目指す看護師に対し、対象にあったケア計画・実践・評価ができるよう意図的、継続的に指導できる。 | | |
| | | | 看護学生に対し、実習目的に応じた支援ができる。 | | |
| | | | 自己で研究テーマを見出し、研究チームの中で中心的役割を担うことができる。 | | |
| 項目数 | 5 | | 修得率 | 0% | 0% |

レベルⅢ

レベルⅢの定義

- 1) ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する
- 2) 所属する職場で、組織的役割が遂行できる。看護チームでは、チームリーダーやコーディネーターの役割、所属部署での係としては、創造的能力を要求される係の役割を遂行できる。
- 3) 自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる

| レベルⅢ | 自己評価 | 他者評価 |
|-----------|------|------|
| ニーズをとらえる力 | 0% | 0% |
| ケアする力 | 0% | 0% |
| 協働する力 | 0% | 0% |
| 意思決定を支える力 | 0% | 0% |
| 組織的役割遂行能力 | 0% | 0% |
| 自己教育・研究能力 | 0% | 0% |



レベルⅣ

【看護の核となる実践能力】

レベルⅣの定義 幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する

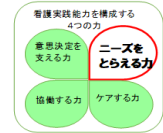
“萬生会を目指す看護師の姿”

- ・ 予後予測に基づき、看護実践の変更と評価ができる
- ・ 多職種と連携しながら患者の意思決定を支える医療者として調整力を発揮できる
(教育担当者・主任)

ニーズを捉える力

【レベル毎の目標】ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる

- 行動目標 ① 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる
② 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる

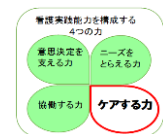


| カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|---|---|-------|-------|
| | | 自己評価 | 他者評価 |
| | | 月 日 | 月 日 |
| ニーズをとらえる力 | 患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者の家庭での役割、仕事の内容、疾患に対する思い等を意図的に焦点化して確認し、収集した情報を統合してニーズをとらえることができる。 | | |
| | 正確なフィジカルアセスメントだけでなく、患者から症状の訴えがあった場合、原因としてあらゆることを想定して患者の体内で起こっている現象を考えながら、意図的に観察し、アセスメントできる。 | | |
| | 重症者や多重課題・時間切迫下において、状況や優先度に応じたフィジカルアセスメントを行い、現在の状況判断および予測的な状況判断を説明できる。 | | |
| | 人生の最終段階の判断が困難な患者においても、先々を見据えた情報収集をすることができる。 | | |
| | 心不全や慢性呼吸不全等の急速に増悪する疾患の患者について、入院を繰り返される中で、今回の入院で看取りまで想定する必要性に気づいて情報収集ができる。 | | |
| | 所属部署で担当している個々の患者の全体像およびニーズ、入院支援の目標について把握している。 | | |
| | 療養場所や治療などの選択に関して、患者および家族が合意形成するのに必要な情報を統合し、ニーズをとらえることができる。 | | |
| ケアだけでなく、予想される状況に必要な情報を把握して、対応できるようニーズをとらえることができる。 | | | |
| 項目数 | 8 | 修得率 | 0% 0% |

ケアする力

【レベル毎の目標】様々な技術を選択・応用し看護を実践する

- 行動目標 ① ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる
② 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる

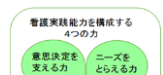


| カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|---|--|-------|-------|
| | | 自己評価 | 他者評価 |
| | | 月 日 | 月 日 |
| ケアする力 | 患者の顕在的・潜在的ニーズに応えるために疾患の予後と治療による影響と患者の生活を考慮し、幅広い選択肢からの提案やケアの実践ができる。 | | |
| | 退院前後の在宅移行時のケア調整やターミナル期のケア調整など、患者の療養状況の変化を予測してケアの提案と実践ができる。 | | |
| | 入退院を繰り返している患者の終末期の過ごし方について患者や家族等の希望を把握し、必要な支援体制を整えることができる。 | | |
| | 患者や家族に対して指導をする場合、患者の生活の中で起こりうる課題や症状について予測した上で、患者や家族の思いや理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明できる。 | | |
| | 患者に対して指導をする際、患者の生活習慣や価値観等、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提案し、患者が主体的にセルフケアに向けて行動できるよう関わることができる。 | | |
| | 急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、患者および家族（または患者を取り巻く人々）への対応と今後への準備ができる。 | | |
| | 状態に応じて、予測される今後の状況の変化や必要な対処について、具体的に患者や家族に伝えて情報共有を図ることができる。 | | |
| 所属部署で担当している個々の患者の入退院支援計画を把握し、計画に沿ったケアの実践・評価・修正がなされるよう行動できる。 | | | |
| 項目数 | 8 | 修得率 | 0% 0% |

協働する力

【レベル毎の目標】ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる

- 行動目標 ① ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる



- ② 多職種間の連携が機能するように調整できる
- ③ 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる

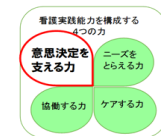


| カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-------|-------|---|-------|------|
| | | | 自己評価 | 他者評価 |
| | | | 月 日 | 月 日 |
| 協働する力 | | 退院支援において、患者の退院後の生活を予測した上で可能な限りケアをシンプルにし、継続することが必要なケアが適切に訪問看護等の在宅サービスに継続できるよう地域連携職員と協働できる。 | | |
| | | 患者や家族等の状況と今後予測される状況をとらえ、患者の希望やニーズに応じて必要な連携職種を判断し、地域連携職員と協働し調整することができる。 | | |
| | | 院内外の多職種による退院前カンファレンスにおいて必要な発言ができ、訪問看護等の在宅サービス担当者の提案や意見を取り入れ、患者や家族の意向を確認しながら合意形成し、必要なケアが適切に継続されるよう行動できる。 | | |
| | | 多職種間の連携においては、各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化し、患者に関わることのできるような連携を促進する。カンファレンスにおいては、連携が促進されるようファシリテートすることができる。 | | |
| | | 患者の身体的変化から入退院支援の目標の変更の必要性について提案を行う等、随時多職種へ情報提供、カンファレンスを開催し、患者や家族の意向を確認しながら目標の再設定を行う等、円滑な連携を図ることができるよう調整できる。 | | |
| | | 人生の最終段階や医療依存度の高い患者のケアに対して多職種に恐怖心がある場合、観察ポイントや注意点を伝える等、医療的な視点を伝え、連携を図ることができる。 | | |
| | | 医療依存度の高い患者のケアや複雑なケアを要する患者のケア等、ロールモデルとしての行動をとることができ、質の高いケアの実践を促進することができる。 | | |
| | | 事例検討会やデスクカンファレンスを開催し、行ったケアの振り返りを行い、関係者のケア内容への思いの共有を図ることができる。 | | |
| 項目数 | 10 | 修得率 | 0% | 0% |

意思決定を支える力

【レベル毎の目標】ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる

- 行動目標 ① ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる
- ② 患者の立場に立って、患者の知る権利や自己決定権を守るよう指導できる



| カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------|-------|--|-------|------|
| | | | 自己評価 | 他者評価 |
| | | | 月 日 | 月 日 |
| 意思決定を支える力 | | 患者と家族（または患者を取り巻く人々）の気持ちを引き出したり、自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に関わり、幅広い知識から様々な案を提示することで、意思決定プロセスを促進させることができる。 | | |
| | | 患者の治療方法の選択、療養の場の選択、看取りにおいて、患者や家族の意思決定に伴うゆらぎに寄り添いながらケアを行い意思決定プロセスを支援することができる。 | | |
| | | 治療選択の場において、今後起こり得る生活の変化等、予測を含めた情報提供を行うことができ、それらに関して患者や家族の認識のズレがあれば、それに気づき調整ができる。 | | |
| | | 患者と家族（または患者を取り巻く人々）、医療スタッフの意向が異なる場合において、意向の違いの原因をとらえ、カンファレンスを開催し調整する。 | | |
| | | 複雑な意思決定場面において、患者と家族（または患者を取り巻く人々）を尊重し、意思決定されたことが実現するようケアに反映させることができる。 | | |
| | | 人生の最終段階を迎えようとしている患者とその家族が望む最期の在り方を繰り返し確認し、必要に応じて再調整し、希望が尊重されたケア体制を整えることができる。 | | |
| | | 患者と家族（または患者を取り巻く人々）の意思決定に変化があった場合にもその選択を尊重し、実現するよう調整しケアに反映させることができる。 | | |
| | | 入退院を繰り返している人生の最終段階の判断が難しい慢性疾患の患者についても、患者や家族（または利用者を取り巻く人々）の今後のイメージを確認し、人生の最終段階の迎え方の希望を確認しておくことができる。「現在」だけでなく「先」を見据えた意思決定の支援ができる。 | | |
| 項目数 | 10 | 修得率 | 0% | 0% |

【組織的役割遂行能力】

レベルⅣの定義

看護チームでは、チームリーダーやコーディネーターの役割、病棟での係としては、創造的能力を要求される係の役割を遂行できる。所属する職場で、特殊なまたは専門的な能力を必要とされる役割、または指導的な役割（学生指導、業務改善係、学習会係、教育委員、リスクマネジメント係など）を遂行できる。看護単位の課題の明確化ができる。

- 行動目標 ① チームメンバーが、医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する行動がとれるよう指導できる

② 衛生生命倫、病院事業計画、看護部門の目標を看護しながら、所属部署の目標達成のための自身の役割行動をとることができる

③ 看護部委員会に所属部署の代表として参加し、自身の役割を遂行できる

| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しかつ 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | | | |
|-----------------------|------|--|-------------|-------------|----|----|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 | | |
| 組織的 役割 遂行 能力 | | 厚生会理念・病院事業計画・看護部門の目標を意識しながら、所属部署の目標達成のための自身の役割行動をとることができる。 所属部署の目標達成に必要な課題に気づき、改善策について、看護師長へ提案できる。 看護部委員会に所属部署の代表として参加し、積極的に発言する。また、得た情報を看護師長へ報告するとともにチームメンバーへ提供し、浸透させることができる。 入退院支援計画が適切に立案され、計画に基づきケア提供ができるよう、チームメンバーへ指導できる。 メンバーの行う看護行為が計画に沿って適切に行われているか指導でき、必要に応じて計画の修正や追加を指導できる。 個々の患者についてチームメンバーのケア提供状況を把握し、タイムリーにカンファレンス開催を指導できる。 チームメンバーと情報や意見交換し、メンバーの能力や業務の進行状況に応じた調整を行い、メンバーが勤務時間内に業務終了し引き継ぐことができるよう支援できる。 自身の行動がメンバーのロールモデルとなることができる。 教育担当者としての役割を果たすことができる 職場内のストレスマネジメントに努め、必要に応じてメンバーからの相談に応じることができる。 チームメンバーが、医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する行動がとれるよう指導できる。 職業人として自覚を持ち、倫理に基づいて行動することができる。 医療安全や感染予防について環境調整や適切な指導ができる。 看護や業務遂行に必要なマニュアルの整備の推進役になるとともに、必要な業務改善を行うことができる。 定期的な防災訓練に積極的に参加し、メンバーへ指導するとともに、災害時への準備に主体的に参加できる。 | | | | |
| | | 項目数 | 15 | 修得率 | 0% | 0% |

【自己教育・研究能力】

レベルⅣの定義 自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に研究に取り組み、後輩のロールモデルとなることができる。

- 行動目標 ① 自身の目指す方向性を意識して、学習活動に積極的に取り組むことができる
 ② 看護部門の研修の運営に携わり、後輩の到達目標の達成を支援できる

| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しかつ 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | | | |
|---------------------------------|------|--|-------------|-------------|----|----|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 | | |
| 自己 教育 能力 ・ 研究 能力 | | 継続的に院内外の研修や学会に参加し、知識・技術の向上に努め、同僚に伝達し、看護部全体のケアの質向上に活かすことができる。 看護部門の主催する研修の企画意図を理解し、受講者の研修目標が達成できるよう研修内容・方法を検討、準備・運営することができる。 看護学生の指導者であるスタッフに意図的に関わりながら支援し、臨地実習の環境を整えることができる。 研究の中心的役割を担い、研究を通し業務改善を推進できる。 | | | | |
| | | 項目数 | 4 | 修得率 | 0% | 0% |

レベルⅣ

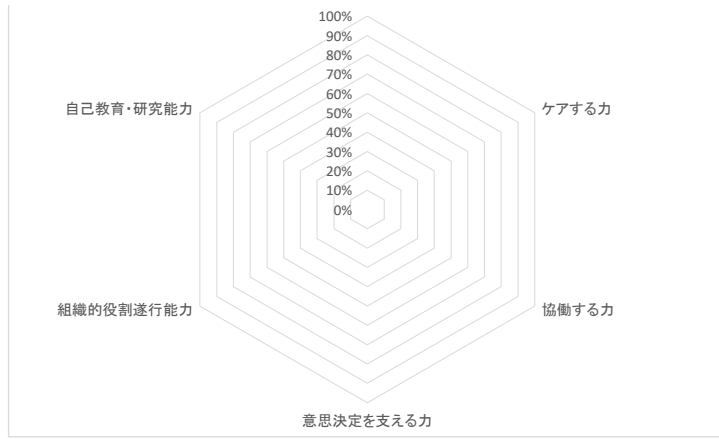
レベルⅣの定義

- 幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する
- 看護チームでは、チームリーダーやコーディネーターの役割、病棟での係としては、創造的能力を要求される係の役割を遂行できる。所属する職場で、特殊なまたは専門的な能力を必要とされる役割、または指導的な役割（学生指導、業務改善係、学習会係、教育委員、リスクマネジメント係など）を遂行できる。看護単位の課題の明確化ができる。
- 自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に研究に取り組み、後輩のロールモデルとなることができる。

| レベルⅣ | 自己評価 | 他者評価 |
|-----------|------|------|
| ニーズをとらえる力 | 0% | 0% |



| | | |
|-----------|----|----|
| ケアする力 | 0% | 0% |
| 協働する力 | 0% | 0% |
| 意思決定を支える力 | 0% | 0% |
| 組織的役割遂行能力 | 0% | 0% |
| 自己教育・研究能力 | 0% | 0% |



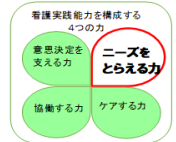
レベルV

【看護の核となる実践能力】

レベルVの定義 より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する

“萬生会の目指す看護師の姿”

- ・提供する看護の質を管理する立場から教育的役割を發揮できる
(スペシャリスト・看護師長)



ニーズを捉える力

【レベル毎の目標】ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる

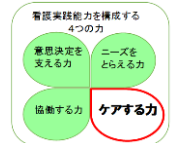
- 行動目標 ① 複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる
② ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる

| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|----------|------|--|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| ニーズを捉える力 | | 複眼的な視点から迅速に患者の複雑な状況（癌末期、多重疾患、社会的困難、虐待、ネグレクト等）を生活歴、家族歴、地域福祉、社会資源など様々な視点からの確に把握し、多様なニーズをとらえることができる。 | | |
| | | 複雑困難な患者の状況を、生活歴、家族歴、地域福祉、社会資源など様々な視点からの確に把握し問題を明確化できる。 | | |
| | | 患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者を取り巻く多様な人々がもつ情報の重要性を理解し、情報収集して患者と家族（または患者を取り巻く人々）の価値観とすり合わせ、多角的な側面からニーズをとらえ、問題を明確化できる。 | | |
| | | 所属部署で担当している個々の患者の全体像およびニーズ、入退院支援の目標について把握している。 | | |
| | | ニーズに対して地域に不足している機能、支援に気づき、地域連携担当者に働きかけることで解決を図ることができる。 | | |
| 項目数 | 5 | 修得率 | 0% | 0% |

ケアする力

【レベル毎の目標】最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する

- 行動目標 ① ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追求できる
② 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる



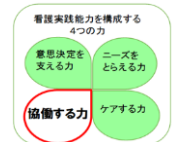
| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-------|------|---|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| ケアする力 | | 患者がどのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアをすることができる。先進的なケアや処置、機器等の管理方法、疾患に対する最新の知識や技術を積極的に取得し、ケアに活かすことができる。関わる他のスタッフに指導することができる | | |
| | | 複雑な状況の中で見えにくくなっている患者・家族等の課題を、看護理論等に沿って整理し、ニーズを引き出し、必要なケアを実施できる。これらについて関わるスタッフに指導することができる。 | | |
| | | 患者の疾患の予後と治療による影響により、患者・家族等が希望するケアの提供が難しい複雑なケースであっても、患者の希望や価値観、尊厳を尊重し、あらゆる技術や工夫によって、最大限ニーズを満たすケアを提案、実施でき、またスタッフに指導できる。 | | |
| | | 患者の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見を用い、患者の尊厳を尊重し、患者のQOLや生活の可能性を広げるケアを考え実践できる。 | | |
| | | 所属部署で担当している個々の患者の入退院支援計画を把握し、計画に沿ったケアの実践・評価・修正がなされるよう指導できる。 | | |
| | | 急変時には、複雑な病態の患者においても、原因や今後の展開を予測しながら、患者および家族（または患者を取り巻く人々）への対応と今後への準備ができる。 | | |
| | | 予想される変化を捉え、必要な連携や計画変更を行いケアができるよう指導できる。 | | |
| | | コミュニケーションに長けており、各患者に最適な対応ができる。 | | |
| 項目数 | 9 | 修得率 | 0% | 0% |

協働する力

【レベル毎の目標】ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす

行動目標 ① 複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる

- ② 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる
- ③ 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる
- ④ 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる



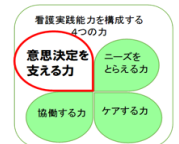
| | カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | | | | | |
|-------|------|-------|---|---|-------------|---|-----|----|----|
| | | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 | | | | |
| 協働する力 | | | 複雑な状況の中で見えにくくなっている患者・家族等の課題を、看護理論等に沿って整理し、ニーズを引き出すことができ、患者の課題やニーズについて根拠をもって他職種に説明できる。 連携にあたっては全体を俯瞰し、まわりを動かすことができる。多職種を巻き込み、各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化し、チームの目標を共有し、結束して関わることのできるような連携を促進する。カンファレンスにおいては、中心となって各職種を尊重しながら、問題解決へ導くことができる。 看護チーム内では、看護師が役割を効果的に発揮できるよう調整を行う。 多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との複雑な調整ができ、ケアが継続するよう行動できる。 | | | | | | |
| | | | | 複雑な状況の患者・家族等について、ケアに必要な各関係機関と連携し調整することができる。 患者の心身の変化から入退院支援の目標の変更の必要性について提案を行う等、随時多職種へ情報提供、カンファレンスを開催し、患者や家族の意向を確認しながら目標の再設定を行う等、円滑な連携を図り調整できる。 困難事例のカンファレンスにおいて、全体を把握しながら、ファシリテーターとしての役割を果たすことができる。 多職種における事例検討会を定期的に行えるシステム作りを行う等により、関係者の活力を引き出す役割を果たすことができる。 自施設に不足している機能に気づき、補完するために資源を活用できる。 | | | | | |
| | | | | | 項目数 | 9 | 修得率 | 0% | 0% |

意思決定を支える力

【レベル毎の目標】複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる

行動目標 ① 適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる

- ② 法のおよび文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
- ③ 患者の立場に立って、患者の知る権利や自己決定権を守るよう指導できる。



| | カテゴリ | 評価の視点 | 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | | | | |
|-----------|------|-------|--|-------------|-------------|-----|----|----|
| | | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 | | | |
| 意思決定を支える力 | | | 患者と家族(または患者を取り巻く人々)が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に関わるなかで、意図的に医療チームを動かす、意思決定プロセスを支援できる。 患者と家族(または患者を取り巻く人々)の思いは日々変化していることを念頭に、意思決定の内容に変化があった場合にもその選択を尊重し、実現するよう調整しケアに反映させることができる。 複雑な意思決定プロセスにおいて、患者の尊厳を尊重した意思決定のために、適切な資源を積極的に活用し、調整し、意思決定へ導くことができる。 患者と家族(または患者を取り巻く人々)、医療スタッフの意向が異なる場合において、その状況を再度確認し、必要時は再調整し、患者の希望が尊重されたケア計画に整えることができる。 意識障害や認知症など、本人の意向の確認が困難な状態にある患者の意思決定支援ができる。 患者・家族等の希望やイメージを含めて汲み取りながら、最適な方向へ調整することができる。 治療を継続することが本当に患者本人にとって良いことを、身体面や心理面などをアセスメントしながら俯瞰的に考え、最適な選択ができるように意思決定を支えることができる。 人生の最終段階にある身寄りのない患者等の複雑な意思決定場面において、本人の意思決定を支えるために、地域の社会資源などのリソースを活用して調整ができる。 法のおよび文化的配慮など多方面から患者と家族(または患者を取り巻く人々)を擁護した意思決定プロセスを支援できる。 患者の立場に立って、患者の知る権利や自己決定権を守るようチームメンバーに対し指導できる。 | | | | | |
| | | | | 項目数 | 10 | 修得率 | 0% | 0% |

【組織的役割遂行能力】

レベルVの定義

所属を超え、看護部や病院から求められる役割を遂行できる。看護単位の課題に対し、具体的な解決策を提案することができる

- 行動目標 ① チームメンバーが、医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する行動がとれるよう指導できる
- ② 萬生会理念・病院事業計画・看護部門の目標を意識しながら、所属部署の課題について意見が述べられ、目標設定に関わることができる
- ③ 所属部署の課題についての解決策を率先して実践できる
- ④ 病院委員会に所属部署の代表として参加し、自身の役割を遂行できる

| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-----------------------|--|--|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 組織的 役割 遂行 能力 | | 萬生会理念・病院事業計画・看護部門の目標を意識しながら、所属部署の課題について意見が述べられ、目標設定することができる。 | | |
| | | 所属部署の目標達成のために、課題への解決策を率先して実践し、後輩へ必要な指導を行うことができる。 | | |
| | | 病院委員会に所属部署の代表として参加し、意見が述べられ、委員会の決定事項について看護部長へ報告し、率先して行動化することでリーダーシップを発揮する。 | | |
| | | 入退院支援計画が適切に立案され、看護行為が計画に沿って適切に行われているか指導でき、必要に応じて計画の評価、修正や追加を指導できる。 | | |
| | | チームメンバーが適切にカンファレンスを活用し、カンファレンス結果をケア計画に反映するよう指導できる。 | | |
| | | 退院支援看護要約の内容について指導できる。 | | |
| | | 業務量と内容、関わる個々の患者の全体像及びニーズ、支援の方針を把握し、チームメンバーの能力に合わせ、適切に役割分担、業務分担できる。 | | |
| | | チームメンバーが、医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する行動がとれるよう指導できる。 | | |
| | | 療養生活において、患者の人間としての尊厳を尊重するよう指導できる。 | | |
| | | 看護単位の特殊性や看護要員の能力などを考慮して、看護方式を決定することができる。 | | |
| | | 看護基準や看護手順、介護手順を定期的に見直し、ケアの質を保証している。 | | |
| | | 医療安全や感染予防について環境調整のチェックの視点を持ち、適切な指導ができる。 | | |
| | | インシデント・アクシデントの事例について多角的に分析でき、必要な業務改善を行うことができる。 | | |
| | | 職場内のストレスマネジメントに努め、チームメンバーの意見や悩みを聞き、問題を明確にし、解決できる。 | | |
| | 院内防災規定と防災対策を熟知し、発生時の役割分担を明確にし、チームメンバーを指導できる。 | | | |
| | 権限委譲を適切に行い、指導者、後継者を育成している。 | | | |
| 項目数 | 16 | 修得率 | 0% | 0% |

【自己教育・研究能力】

レベルVの定義 単独で専門領域や高度な看護技術等についての自己教育活動を展開することができる。主となり研究活動を実践できる。看護単位における教育的役割がとれる。

- 行動目標 ① 看護部門や病院の研修の運営に携わり、看護部や病院職員の教育に関わることができる。

| | カテゴリ | 評価の視点 評価【5:できた 4:ほぼできた 3:少しできた 2:不十分 1:できない 0:未経験】 | 5段階評価 | |
|-------------------------------|------|---|-------------|-------------|
| | | | 自己評価 月 日 | 他者評価 月 日 |
| 自己 教育 ・ 研究 能 力 | | 看護部門や病院の主催する研修の企画意図を理解し、受講者の研修目標が達成するよう準備・運営し、講師を務めることができる。 | | |
| | | 看護上、困難な患者に対して看護実践を通して、後輩に対して教育的役割を担うことができる。 | | |
| | | 臨地実習受け入れ施設として教育環境を整え、チームメンバーが適切に実習生を支援するよう指導できる。 | | |
| | | 継続的に院内外の研修や学会に参加し、知識・技術の向上に努め、同僚に伝達し、病院全体のケアの質向上に活かすことができる。 | | |
| | | 看護研究の指導的役割を果たすことができる。 | | |
| 項目数 | 5 | 修得率 | 0% | 0% |

レベルV

レベルVの定義

- 1) より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
- 2) 所属を超え、看護部や病院から求められる役割を遂行できる。看護単位の課題に対し、具体的解決を図ることができる。
- 3) 単独で専門領域や高度な看護技術等についての自己教育活動を展開することができる。主となり研究活動を実践できる。看護単位における教育的役割がとれる。

| レベルV | 自己評価 | 他者評価 |
|-----------|------|------|
| ニーズをとらえる力 | 0% | 0% |
| ケアする力 | 0% | 0% |
| 協働する力 | 0% | 0% |
| 意思決定を支える力 | 0% | 0% |
| 組織的役割遂行能力 | 0% | 0% |
| 自己教育・研究能力 | 0% | 0% |

